

人件費削減	給与水準と職員数の削減については複数回質問。人件費総額は約2億円、常勤職員数は13人減ったが、職員総数は39人増（H23とH26との比較）。給与水準はラスパイレス指数102.7（H26.4.1）で未だに高い。
シンプルでフラットな組織	ポスト削減を提案し、H24年度の行革項目に位置付けられた。
「市民判人方式」の事業仕分け	委員会で複数回、導入を提案したが実現していない。
地域交付金の創設	地域コミュニティ活性化基本方針が策定され地域の様々な主体が一堂に会し情報交換や課題を話し合う「地域会議」の設置が位置づけられたが、課題解決のための地域交付金創設には至っていない。
超高齢社会への対応	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステムの構築を提案。第6期介護保険事業計画の柱に位置づけられる。 「高齢者の居場所」として地域のみなさんと一緒に“シニアサロンかえで”を開設。
市民ファンドの創設	「地産・地消の太陽光発電」事業における財源確保策として市民ファンドを検討中。
「提案型公共サービス 民営化制度」の充実	提案者を増やすためにNPO等の担い手づくりに取り組んでいる。
安全・安心なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織の充実については自治会の70%強が設置済み。 震災復興：液状化被害からの復興は一応目途が立ったが根本的な液状化対策は未完。 水害対策：常襲地域である布佐地区にポンプ場完成。今後、ポンプ場までの水路を整備予定。
放射能汚染への対策	<ul style="list-style-type: none"> 測定・検査体制：測定・検査体制は整備されたが十分とは言えない。 除染の取組み：一通り除染は終わったが十分とは言えない。
自然エネルギーの推進	市民と市の協働で太陽光発電を推進する協議会の設置を提案。現在、年内の設置に向けて準備中。
子どもへの投資	<ul style="list-style-type: none"> 保育園の待機児童0の堅持：待機児童0を継続中。 保育機能の充実：子ども・子育て新制度がH27年4月からスタートし、地域型保育など多様な保育の場がつけられはじめた。
参考人制度や公聴会の積極的活用	議会基本条例に参考人制度や公聴会の積極的活用が明記された。委員会審査では、請願・陳情代表者から意見を聴く機会を設けている。
議会報告会の開催	議会基本条例に明記され、第1回目の議会報告会が市内3か所で実施された。
通年議会の提案	議会基本条例には明記されなかったが、継続して検討することになった。
議員の定数や報酬などは市民の意見を尊重して決定	議会基本条例に明記された。
高濃度放射性廃棄物問題	柏市、流山市、松戸市から搬入されたごみ焼却灰（指定廃棄物）の撤去を求めて住民と共に公害等調整委員会での調停、民事訴訟等を行い3市への持ち帰りが実現した。
FH（布佐平和台）未来プロジェクト	地域の皆さんと共に自治会の見直し、高齢化した地域の課題解決策を検討。意見書作成。資源ごみの用具出しの負担軽減を実施。別事業としてシニアサロンを創設。
地域包括ケアシステムの構築	委員会で毎回その必要性を提案。第6期介護保険事業計画に位置付けられた。24時間定期巡回随時対応訪問介護看護についても平成28年までに事業者を確保することになった。
地産・地消の太陽光発電を考える学習会	学習会や映画会等を実施。他団体や市と共に太陽光発電の推進協議会を準備中。



議会での質問



映画「シェーナウの想い」上映



シニアサロン「かえで」



JR東日本東京支社に要望活動

みんなで創ろう！
「NEXTあびこ」

～内田みえこのプロフィール～

1950年 静岡県榛原郡金谷町（現島田市）生まれ。静岡大学付属中学校、県立掛川西高等学校、昭和女子大学英米文学科卒業後、都市銀行で外国為替業務に従事。2003年 我孫子市議会議員に初当選。現在3期目。

活動履歴 我孫子市行政改革市民推進委員会委員長、国際交流協会日本語教室講師、根戸小学校PTA会長、布佐南小学校学級委員連絡協議会副会長

所属団体 あびこ女性会議、地産・地消の太陽光発電を考える学習会、エコライフあびこ、FFC、消費者の会、地産地消推進協議会、あびこガイドクラブ、布佐平和台ふれあい福祉くらぶ（FFC）、「がんばろう、日本！」国民協議会同人



NEXT あびこ

我孫子市議会議員 *Mieko Uchida*

うちだ

内田みえこ

MAIL

mieko50@jcom.home.ne.jp

HP

<http://uchida-mieko.jimdo.com/>



人口減少社会、少子・超高齢社会が現実

4年前、人口減少と少子・超高齢社会を“我孫子の不都合な真実”として問題提起しましたが、それが今、現実のものとなりました。

我孫子市の人口は131,556人（平成27年8月1日現在）。平成21年10月の136,265人をピークに、東日本大震災以降の急速な減少により、現在までに**4,709人減少**しています。

また、高齢化については、**市内平均の高齢化率は27.9%**（平成27年8月1日現在）、地域によっては65歳以上の人が住民の半数を超える“限界集落”も出現しています。

普通に暮らすことが難しい時代に

急速な高齢化の進展により、特別養護老人ホームの待機者は現在でも400人を超えています。10年後には、団塊の世代が全員75歳以上になり**医療や介護などのニーズが爆発的に増大し、その体制整備が追いつかない“2025年問題”**が待っています。いわゆる“病院で死ねない時代”がやってきます。

また、虐待やいじめ、貧困の問題など**子どもを取り巻く環境も厳しさを増しています**。

東日本大震災に伴う原発事故による放射線の子どもの健康被害の不安も消えていません。

原発事故により発生した高濃度放射性廃棄物の最終処分場の目途も経たず、現在も手賀沼終末処理場には8,000ベクレルを超える下水道汚泥焼却灰がお粗末なテント倉庫に550トン保管されています。

さらに、安保法案をめぐる問題では、憲法によって縛られる側の内閣が、「憲法9条の下では集団的自衛権は行使できない」との従来の見解を覆し解釈改憲をすることは、立憲主義の立場から許されません。

さあ、はじめましょう！未来のために今できること

私たちは今、人口減少と少子・高齢化、それに伴う厳しい財政状況に直面しています。

また、地方分権改革により自分たちのまちは自分たちで創っていく時代、どんなまちにしていくか、政治（議会）の役割はますます重要になっています。しかし、選挙の投票率は低下し、無投票当選も増加しています。「課題に答えられない議会ならいらない！」と住民の議会不信が募る一方、行政の追認機関化している従来の議会では難しい課題になかなか対応できず、ますます政治的無関心が拡大しています。

この状況を脱却するために、**住民に開かれ、住民と共に歩む議会を作ることが重要**だと考えています。

また、当事者意識の欠如が問題になっていますが、生活の現場で直面する課題に真摯に向き合うことから始めてみませんか。自分の生活や未来を勝手に決められたくないと思うのは私だけでしょうか？

時代が大きく変わろうとしている今だからこそ、“私が私たりうるために”、社会としっかり向き合っていきたいですね。～さあ、みんなで創りましょう！「NEXTあびこ」を～

「あびこの風」No.54 特集号

■発行

内田みえこと

我孫子をデザインする市民ネット

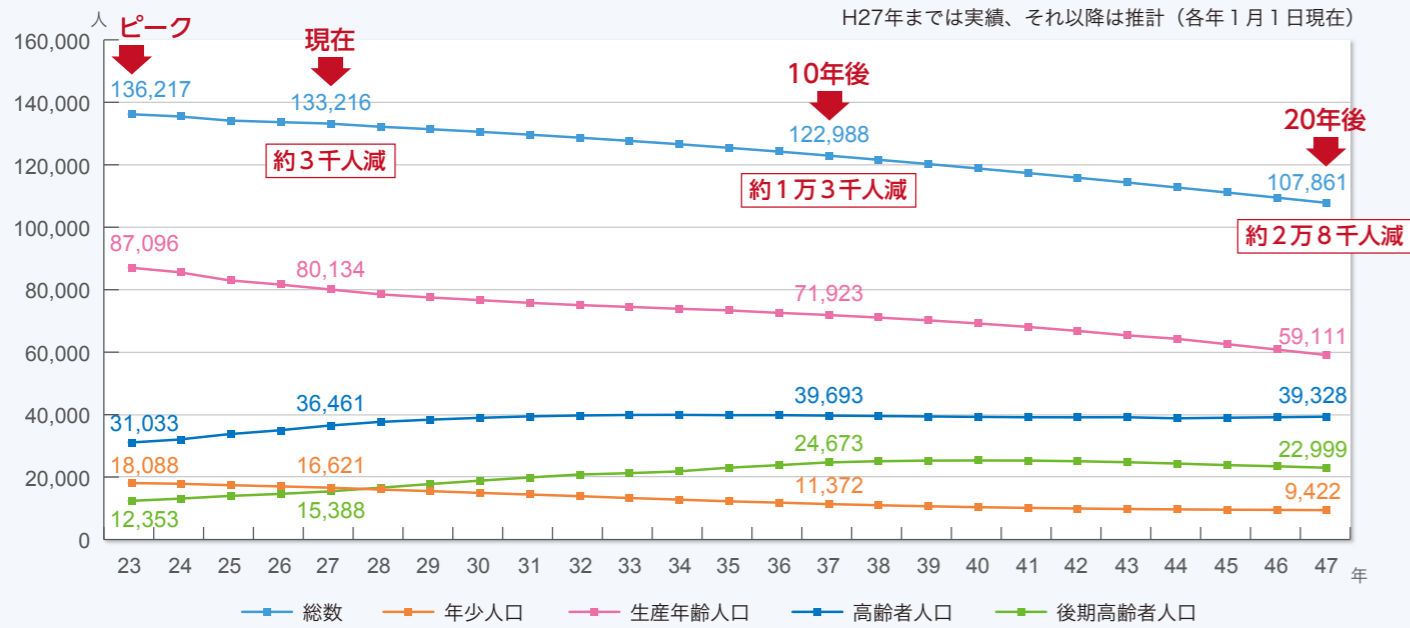
〒270-1108

我孫子市布佐平和台2-18-10

■連絡先

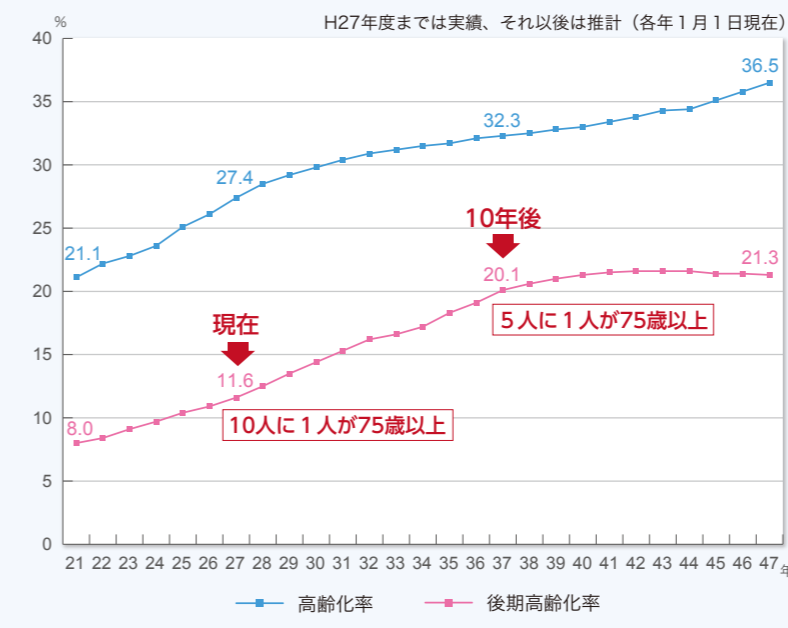
TEL・FAX：04-7139-8859

人口の推移と推計



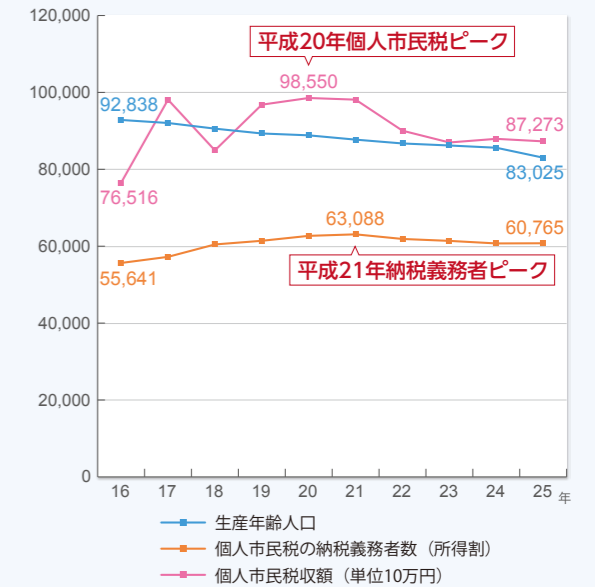
- ★総人口は各年1月1日比較のピーク時より約3千人減少。10年後、約1万3千人、20年後、約2万8千人減少。
- ★生産年齢人口は10年後、約8千人、20年後、約2万人減少。
- ★後期高齢者（75歳以上）は10年後、約1万人増加。

高齢化率の推移と推計



- ★平成21年から超高齢社会（高齢化率21%以上）に突入。高齢化は今後も進む。
- ★今後75歳以上の後期高齢者が急速に増加。
- ★10年後の平成37年には5人に1人が75歳以上で、後期高齢者は現在の2倍。

生産年齢人口、納税義務者、個人市民税の推移



- ★生産年齢人口の減少に伴い納税義務者減少。その結果、市の歳入の根幹である個人市民税減少。

【NEXT あびこ】プロジェクト

徹底した行政改革と住民の自治力による
“スリムな行政 豊かな公共” NEXTステージ

POINT 1 未来にツケをまわさない

■ 財政規律の確立

借金を増やさないために起債総額を公債費以下に。

■ 人件費の削減

給与水準を下げる（ラスパレス指数1以下に）。

■ “市民判定人方式”の事業仕分けの導入

厳しい財政状況の中、『あれもこれも』から『あれかこれか』の選択の時代、“何をあきらめ 何を残すか”について、如何に市民の意向を反映させるかが課題。“市民判定人方式”を取り入れた事業仕分けの導入。

■ 公共施設の更新問題への取組み

今後、厳しい財政状況の中、老朽化による建て替えや大規模改修等の費用が一層財政を圧迫。

“省インフラ”の視点で、ファシリティマネジメントの手法で公共施設の更新問題に取り組む。

■ 我孫子版「ちばレポ」の仕組みをつくる

市内の課題をICTを使って市民と行政が協働で解決。

■ 公共の担い手づくり

担い手の高齢化が進み活動の存続が危がまれている。担い手が生まれる環境を整備する。

POINT 2 超高齢社会への対応

■ 地域包括ケアシステムの構築

・在宅医療の推進、医療と介護の連携、24時間定期巡回・随時対応訪問介護看護体制の整備。

・高齢者の住み替え、住宅の売却、空家の活用等、住まいの総合相談窓口の設置。

・介護予防や生活支援事業を担うNPOや社会企業の起業支援、ボランティアの育成支援。

■ 地域コミュニティの活性化

・地域課題を地域で解決するしくみづくり

■ 「地域の便利屋」の創設

住民が自分のできることを登録する「できること登録」(地域の人材バンク)を創設し、それを活用した地域の生活支援事業を検討する。

■ 移動スーパーの運行

“買い物難民”対策として、取手市のように民間事業者と連携しバスを利用した移動スーパーの運行を検討する。

■ あびバス・民間の送迎バス利用の拡充

免許を返上する高齢者が増加する超高齢社会の中での交通網の整備に取り組みます。

POINT 3 未来への投資

■ 子育て支援

・保育施設の待機児童0の堅持とともに質の向上、希望する地域の施設への入園を可能に。

・“我孫子版ネウボラ”の設置。

・生活困窮者世帯への学習支援。

・あびっこクラブの早期全校実施。

■ 地産・地消の太陽光発電の推進

・市民・行政・企業等で推進協議会を設立し、地産・地消の太陽光発電の事業化と環境教育の実施。

■ 手賀沼を活かしたまちづくりNEXT

・手賀沼周辺を“人・鳥・文化のハーモニースポット”に。
・公園坂通りの早期整備。(仮称：物語が生まれる散歩道)

■ 放射能から子どもを守る

・甲状腺エコー検査費用の助成。

・手賀沼終末処理場の下水道汚泥焼却灰(指定廃棄物)の保管の安全性確保と最終処分場の早期確保。

■ 女性の活躍を応援

・子どもを生み育てながら仕事ができる環境整備。

・決定の場への参画や管理職への登用の促進。

POINT 4 フォーラムとしての議会へ

■ 議会報告会&意見交換会の開催

・議会の見える化と議会への市民参加を促進する。
・政策や事業に市民の意見を反映させる。

■ 参考人制度、公聴会制度の活用促進

・論点の明確化と合意形成を図る。

■ 議員間討議の実施

・議会の見える化と市民への説明責任を果たす。

■ 委員会の出前の実施

・議会の見える化と市民への説明責任を果たす。

■ 通年議会の検討

・1年を通して会期とすることで議会の機能を強化。

POINT 5 これからの議員

■ 暮らしの現場の課題を政策提言

・生活の中で直面した制度の外にある課題を、社会の問題として議会に政策提言、課題解決を図る。

■ 地域のコーディネーター

・地域課題を考える“場”を設定し、情報を共有、学びと対話を通して課題解決を図る。